

mailgraph

GEOFFIS

2002.5.23

Photographer TATSUANG

2002.5.23

mailgraph GEOFIS vol.8

奥日光



男体山（2484m）。この朝、山頂を覆った雲が遅い雪を降らせていた。



ズミの繁茂する水辺。戦場ヶ原を流れる湯川は神秘的なたたずまいだ。



湿原のいたるところに見られるシラカバの林。やがてミズナラなどに取って代わられる運命だ。



柔らかい葉が風に揺らぐ姿に、自然とこちらの気持ちも和んでくる。素直な感情を大切にしたい。



緩やかに戦場ヶ原を流れる湯川。時折、フライフィッシャーたちの姿を見かける。



シカは全国的に増えている。運が良ければ日中に遭遇することができる。



奥日光はミズナラの宝庫だ。文字通り水気を好む木だが、森の形成期は比較的新しく、まだ過渡期のような。土壌の乾燥化とともにやがて多くはブナに場所を譲ることになる。



ミズナラの朽ちた根元を地衣類が覆う。やがて新しい木の生命が宿る源だ。



柔らかく美しいシラカバの若木。どうしてこんなに木肌が白いのだろうか？



小田代ヶ原は戦場ヶ原の西側にある。名前の響きはこちらの方がずっといい。
ここも乾燥化が進み、やがては森になるのだろう。シラカバはその先陣だ。



戦場ヶ原を抜けた湯川はしゃくなげ橋のあたりから一気に高度を下げ、竜頭の滝を経て中禅寺湖へと流れ込む。



溪流沿いのミズナルコが西日に輝く。人にとっても、植物にとっても、光と水ほどありがたいものはない。



水の動きは千差万別だ。その流れる様はいつまでも見飽きることがない。



ミズナラの芽吹きは遅い。ようやく葉が開き始めるところだ。辺りには役目を終えたシラカバの倒木が多く目に付く。異樹間世代交代とでも言おうか。「個にして全」・・・王虫（オーム）の言葉だ。命の絆は種を超えて連綿と受け継がれてゆく。



天に向かってどこまでも伸びゆく。大きいこと。その1点だけで畏敬に値する。



ズミの木は湿原の乾燥化を早めるという。それも自然の流れというもの。人為的に阻んだところで、知れている。
大切なことは今現在の状況から、風のささやきに、日の温もりに、水の波動に、全神経を傾けること。

mailgraph GEOFIS vol.8

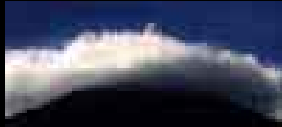
END



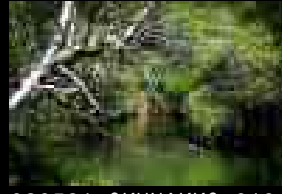
西日を受けてカラマツの若葉が目眩しい。秋口、落葉は濃厚な香りを漂わせる。
久しぶりの奥日光は疲れた肉体に精気を蘇らせてくれた。生きることの初源に立ち返るエッセンス。

Photographer :TATSUANG [Atarashi Tatsuya] Copyright 2002 GEOFIS. All Rights Reserved.

mailgraph GEOFIS Vol.8 OKUNIKKO INDEX



020521_OKUNIKKO_005



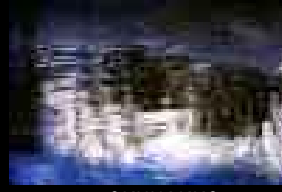
020521_OKUNIKKO_013



020521_OKUNIKKO_066



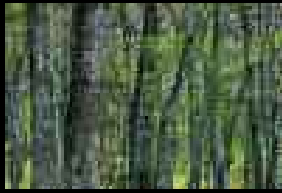
020521_OKUNIKKO_071



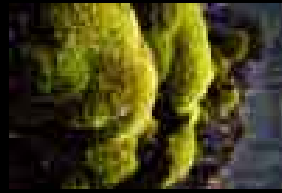
020521_OKUNIKKO_082



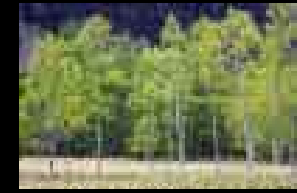
020521_OKUNIKKO_099



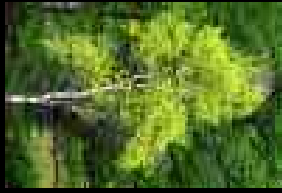
020521_OKUNIKKO_114



020521_OKUNIKKO_138



020521_OKUNIKKO_150



020521_OKUNIKKO_153



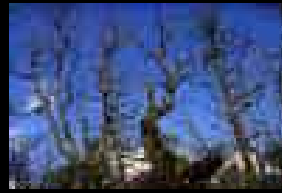
020521_OKUNIKKO_198



020521_OKUNIKKO_219



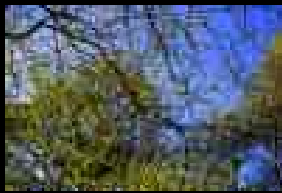
020521_OKUNIKKO_226



020521_OKUNIKKO_240



020521_OKUNIKKO_252



020521_OKUNIKKO_307



020521_OKUNIKKO_314

Photo :TATSUANG [Atarashi Tatsuya]

Date :2002.5.21

Camera:EOS D 30

Lens ;15-30/28-70/70-200/1.4x

(c)2002 GEOFIS www.geofis.com